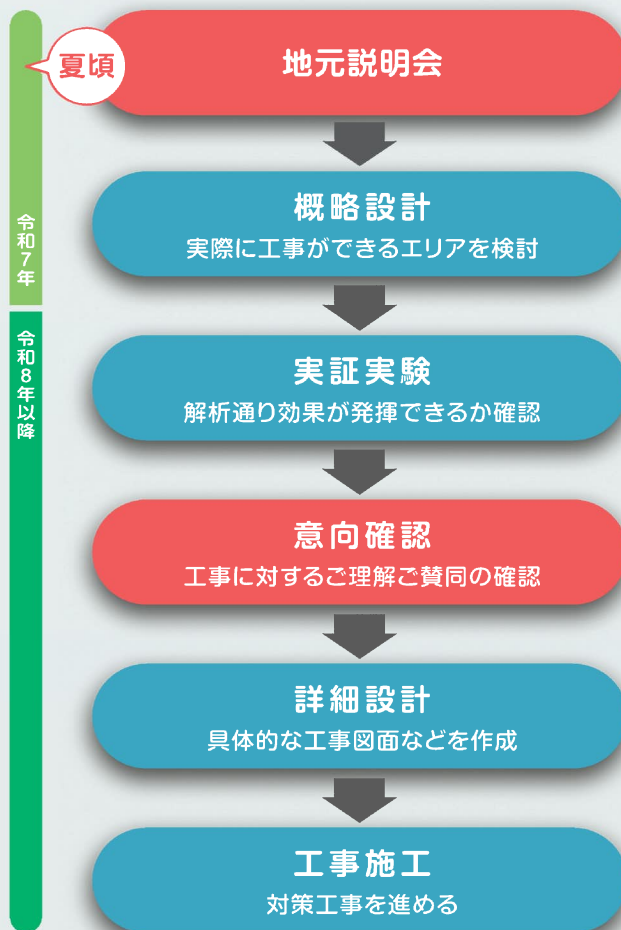


～地元説明会以降の流れ～

※検討の結果、対策が実施できない地域もあります。



詳しくはコチラ

新潟市 街区単位の液状化対策



令和6年能登半島地震

街区単位の
液状化対策の実施に向けて

～これまでの取組みと今後の流れ～

Vol.1



このリーフレットは、能登半島地震の発生から、
これまでの取組みと今後の流れについて示したものです。

今後の検討状況に応じた節目で、
HPなどで情報発信していきます。



街区単位の 液状化対策ってなに？

公道で囲まれた複数の宅地で形成される街区において、大地震が発生した際に、液状化をおこりにくくするために、一体的に対策を行うものです。
※検討の結果、対策が実施できない地域もあります。



街区単位のイメージ図

主な対策工法



地下水位低下工法

地下水位を下げることで液状化の発生を抑制します。



格子状地中壁工法

地下にコンクリートの壁を作ること、砂粒がばらばらに動かないようにし、液状化の発生を抑制します。



液状化対策を 検討している地域は？

能登半島地震により、大きな液状化被害が広範囲に確認された、西区寺尾周辺地区(青山～大野)、黒埼地区(ときめき～鳥原)、江南区天野地区について検討を進めています。



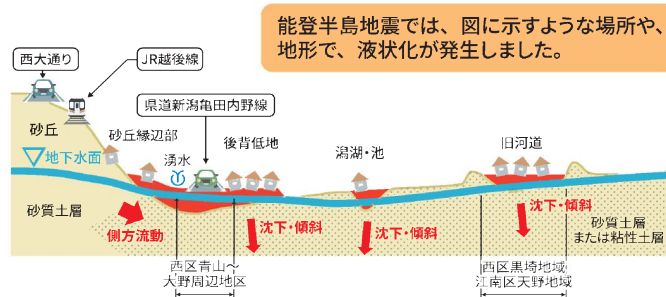
これまでの取り組み

現在

R6年
1月～

現地調査

どんなところで液状化の被害が集中したのか状況を整理しました。

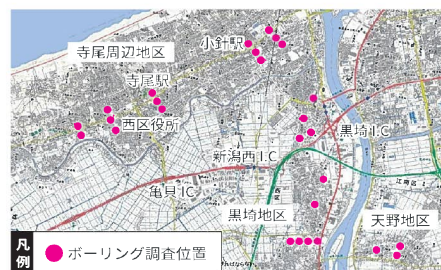


その結果、昔、河川だったところや、砂丘の裾野など、砂地盤で地下水位が高いところで液状化被害が集中したことがわかりました。

R6年
12月～

ボーリング (地質調査)

液状化対策ができる地盤を確認するため、検討地域の中で選定した27箇所について、地質や地下水位を詳しく調べています。



※検討地域の中には、被害の無い住宅も含まれます

R7年
5月～

地盤の検証 (解析)

地質調査の結果を基に液状化対策が適用できる地盤が検証します。

どのくらい地下水位を下げると対策効果があるんだろう？



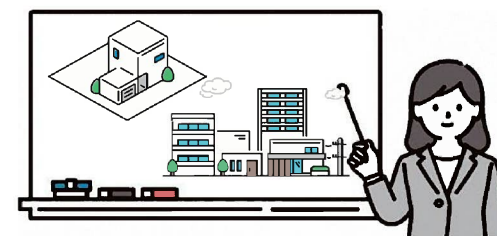
地下水位を下げるどんな影響(地盤沈下)があるんだろう？

R7年
夏頃

地元説明会の開催

西区寺尾周辺地区(青山～大野)、黒埼地区(ときめき～鳥原)、江南区天野地区

検証結果について、お知らせします。



大学の先生や地盤の専門家などで構成される『検討会議』の意見を反映しています